



杞菊地黄丸 (こぎくじおうがん)

【処方コンセプト】目の使い過ぎによるドライアイ・眼精疲労・充血に。

仕事でパソコン、家でもパソコン。1日中、目を酷使していませんか？杞菊地黄丸は、「肝腎陰虚・肝陰虚」で目の症状が強い。つまり目を使い過ぎて目に栄養が届きにくく、目が疲れやすい状態に使用する。随伴症状として、疲れると手や足の裏がほてり、イライラしやすい、口が渇く、排尿困難、目の疲れ、かすみ、充血などを伴う方に用いる。

◆ 出典の『医級』に「肝腎不足にて花を生じ（かすみ目）岐視（物が二重に見える）、或は乾渋眼痛等（病後の栄養不良で精気が衰え目が痛む）を治す」とあり、高齢化社会が進む中で、目を酷使する方が多い現代にピッタリの内容となっている。

◆ 補肝腎作用があり、老化、慢性消耗性疾患に使用する六味丸に目の不調に用いる菊花と枸杞子の2種類の生薬を加え、視力減退、目のかすみ、眼精疲労、目の乾燥・痛み、充血、まぶしい等の目の症状に特化した処方。また、高血圧で目が充血するタイプにも使える。

